

「

日本は 2050 年までにどうすべきか」

令和6年12月17日

1. 当月は、下山健夫さんが、森嶋通夫が 1999 年に上梓した「なぜ日本は没落するのか」を参考にして、2050 年に予測される日本の将来像に関する課題を提起されました。

森嶋氏は大阪大学教授の後、ロンドンに長く滞在され英国学士院会員にもなられています。英国と比較した日本、世界の中の日本という視点から、日本の将来に警鐘を鳴らされました。

人口減少、

精神の荒廃、

金融の荒廃、

産業の荒廃、

教育の荒廃

などの問題点を指摘されており、各論点を下山さんから詳細に説明いただきました。

2. 引き続き出席者 8 名の自由な討論に入り、下記のような意見が出されました。

- ・大衆迎合が際立つ日本の将来は危うい。
- ・森嶋の時代と比較すると、グローバリズムや AI の影響が大きくなる。
- ・日本は滅びるのか？滅びるとは何かを定義すべきだ。
- ・専門部は残るが、大学は残るかどうか。
- ・食料とエネルギーの自給率が極めて低く、安全保障上の大問題だが、何の対策もない。
- ・日本人は、起きてほしくないことは考えない、たちだ。
- ・中国がおとなしい今こそ、資源確保に頑張るべきだ。
- ・アメリカに頼りすぎ。アメリカ離れすべきだ。
- ・103 万円の壁だの、政治資金改正法だの、ばかりでは、国の将来は心もとない。
- ・そもそも大学生が 103 万円以上稼ぐ必要があるのか。
- ・日本では既得権益を壊すのは大変だ。
- ・選挙では各候補の財政政策を判断基準にしている。
- ・野党の立憲が最も財務省寄りだ。

- ・森永卓郎は病身だが、財務省を告発している。
- ・財務省は緊縮財政を維持することで、存在を保っている。
- ・自国通貨で国債を発行しても破綻の心配がないことは、財務省も認めている。
- ・日本は、お札を刷っても破綻しない財政状況だ。
- ・過去 30 年の日本の経済成長は、先進国の中でも飛びぬけて低い。

・移民の受け入れには、プラスとマイナスがある。トランプの移民締め出し政策の結果を見てみたい。

- ・川口のクルド人問題はほとんど報道されない。
- ・日本には既に四百万近い移民がおり、陰の移民大国だ。
- ・移民は安い労働力というが、本当に安いのか？保険のただ乗りも多く、子弟の教育、自治体や警察のコストなど多大だ。移民受け入れ業者はこうしたコストを負担せず、我々の税金が使われている。
- ・移民の受け入れも大きな既得権益だ。

- ・もっとも、中国などは汚職の金額が日本とはけた違いだ。
- ・江戸時代など、権力を持っていた武士は清廉だった。

・今後、AI の影響が強まることは間違いなさそうだが、AI により、世論や言論が操作されるのではないか。

- ・AI は CO=PILOT ともいわれる。副操縦士として賢明に使えばよい。
- ・将棋の藤井名人は AI で腕を磨き、AI を負かすようになっている。

以上